



 **山形大学 農学部**
Faculty of Agriculture, Yamagata University
Guide book 2022



総合科学としての農学

山形大学農学部長 村山 秀樹



山形大学は、6学部からなる総合大学で、学部の数と学生数は、東北にある国立大学では、東北大学に次いで、2番目に大きい大学です。その中で農学部は、日本で唯一ユネスコ食文化創造都市に認定されている鶴岡市にあります。

山形大学農学部の特長は1学科制をとっていることです。1年生は山形市にある小白川キャンパスで主に基盤教育と農学の基礎専門を勉強します。1年間で、360° 広がる農学の中から、自分が勉強したい分野を見つけます。2年生からは、アグリサイエンス、バイオサイエンス、エコサイエンスの3つのコースに分かれて、本格的な専門教育が始まります。そして3年生からは、それぞれのコースの基幹プログラムの他に、地域のリーダーを目指す地域創生プログラムと、国際感覚を身につける国際展開プログラムを選ぶことができるのも大きな特色です。農学部のウリの1つは国際交流です。短期を含めると、毎年100名を超す留学生が勉強しています。

人類が直面している食料、資源、環境問題など、総合科学としての農学の探求を通して、地域に根ざし、世界に向けて情報を発信する農学部を目指しています。



鶴岡キャンパス



高坂農場



上名川演習林

附属やまがたフィールド科学センター

エコ農業部門（高坂農場）、流域保全部門（上名川演習林）および社会教育部門の3部門で構成されています。



エコ農業部門（高坂農場）

本部門は稲作を中心に畜産・果樹・野菜の生産部門がそれぞれ高収量・高品質の生産を目指し、一貫して土地生産型農業の教育研究を行ってきました。しかし、我々が生きている環境の悪化と農業をとりまく環境の変化により、多化学肥料・多農薬散布に依存した高生産性追求の農業を見直し、環境に優しい農業技術の確立が求められています。そのような状況の中、本部門は水稲栽培を基盤とし肉牛生産を有機的に結びつけた物質循環・環境保全型農業を確立し、環境に優しい持続可能な農業を目指した教育・研究を行っています。



流域保全部門（上名川演習林）

上名川演習林は農学部キャンパスより南に約26km、朝日山地の急峻地帯に位置しています。森林面積753haのうち約80%をブナ主体の天然生落葉広葉樹林が占めており、年平均最大積雪が約3mにもなる豪雪地帯です。このような演習林の自然的特性を生かし、森林生態系と積雪環境の相互作用や水循環及び物質循環に関する教育研究を行っており、地域の伝統的な栽培方法である『焼畑』による赤カブ栽培の実践場としても活用しています。また、地域に開かれた大学演習林として、市民を対象に公開行事を開催しています。



社会教育部門

エコ農業部門（高坂農場）、流域保全部門（上名川演習林）と連携し、体験学習、生涯学習およびリカレント教育を行うとともに、開発途上国の農業技術者の研修受け入れ、国際連携研究などの国際貢献を担当します。また、地域文化に込められた人と自然が共生していく知恵を、これからの環境保全型社会の構築に活用する方策を研究します。さらに、広く社会に開かれた大学として地域社会との連携を強化するためにコーディネート機能を重視するとともに、農林生産様式の変化に伴う地域情報の収集、管理発信を行います。

国際交流活動

山形大学農学部では国際交流を活発に行っています。

2016年度から、国際化推進期間としており、「食と農業と環境」をキーワードにした学生の海外派遣・受入れを実施しています。海外協定校の学生と共に学び、活動することを通じて、国際理解を深め、グローバル社会で活躍できる人材を育成しています。2019年度からは、将来、国際的に活躍したい学生を対象とする教育プログラムを設置し、さらなるグローバル人材育成に取り組んでいます。

- ◆学部間学術交流協定大学・機関
9カ国23大学・機関
- ◆留学生数（2021年4月1日現在）
正規生として11カ国から41名の他、7名の短期留学生を受入れています。

- ◆令和元年度 学部実施の各種プログラムによる実績
派遣／33名
(カンボジア13名、イタリア・ドイツ10名、タイ10名)
受入／72名
(インドネシア27名、ドイツ18名、タイ12名、ペルー10名、ベトナム5名)

令和元年度に実施した海外研修



イタリア・ドイツ（9月8日～9月25日）

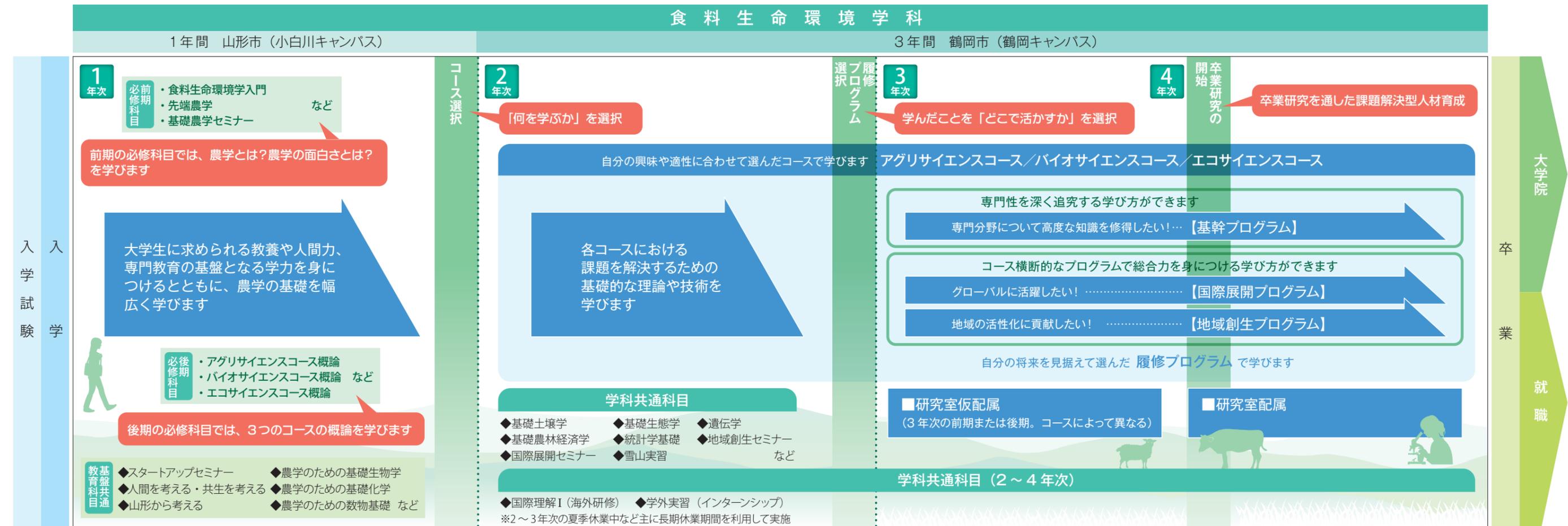


カンボジア（9月20日～9月28日）



タイ（9月21日～9月28日）

山形大学農学部に入學してから卒業まで



1 学科におかれる3つのコース

基礎科目の履修をもとに、自分の興味や適性に合わせて、1年次2月にコースを選択し、2年次からコース配属となります。

アグリサイエンスコース

安全な農畜産物の持続的生産・管理を担える人材を育成。

環境を保全しながら、安全な農畜産物の生産を維持していくために、自然科学と社会科学の両面から、フィールド科学重視の学習を通じて、人や家畜、環境に優しい安全な農畜産物を安定的に生産するための専門的な知識や実践的な技術、農業経営やコミュニティビジネスの発展方策や地域活性化手法、食の安全を担保するフードシステムや循環型社会システム構築に関する理論や方策なども幅広く学びます。

- 【主な授業科目】**
作物学、園芸学の基礎、畜産学、植物保護学、食料生産技術学、食料生産経営学、農業政策と地域振興、フィールド科学、フィールド科学実験実習Ⅰ・Ⅱ、食料生産基礎実験実習、食料生産科学専門実験実習Ⅰ

バイオサイエンスコース

生命科学に関わる現場で活躍できる人材を育成。

身の回りに存在する植物や高等動物、微生物などの多様な生物、及び食品や土壌などを対象とした教育・研究を行っています。生物がもつ生理機能の遺伝子やタンパク質、代謝物レベルでの解明と高度化利用、薬用植物や微生物、食品などに含まれる有用物質の探索、作物の進化や品種の多様性・類縁関係を究明するために、有機化学、生化学、分子生物学、動物栄養生理学、植物栄養生理学、微生物学、食品科学などについて基礎から応用まで広範囲の領域を学びます。

- 【主な授業科目】**
バイオサイエンスコース実験Ⅰ・Ⅱ、基礎有機化学、基礎生化学、分子生物学、動物栄養生理学、基礎植物栄養生理学、微生物学、食品科学、在来植物資源学、農産物生理学、食品衛生学、遺伝子タンパク質工学、土壌生物資源学、動物発生工学、植物育種学などがあります。

エコサイエンスコース

持続可能な自然環境の保全・利用に取り組む人材を育成。

農林業の基盤となる自然環境や生態系のメカニズム、機能を理解し、それらが生み出す恵みを楽しみながら、将来にわたり持続可能な形で保全、利用、管理するための理論や技術を学びます。庄内地方の恵まれた自然的・地理的条件を最大限に活かしながら、山岳から奥山、里山、河川、都市、農村、海岸までの多様な自然と社会を対象に、フィールドワークを重視した教育を受けられます。

- 【主な授業科目】**
農村計画学、森林資源利用学、応用力学、水理学、水文学、測量学、森林生態管理学、林業経済学、森林影響学、流域保全論、里山管理学、森林動物学、自然環境解析論、森林調査基礎実習、土壌環境実験実習などがあります。

3つの履修プログラム

各コースにおける課題を解決するための理論や技術を学んだ後に、2年次2月には

- ・専門分野のより高度な知識の修得を目指す **「基幹プログラム」**
- ・学んだ理論や技術を活かしてグローバルに活躍したい学生を対象とする **「国際展開プログラム」**
- ・地域の活性化に貢献したい学生を対象とする **「地域創生プログラム」**

の中から、自分の将来を見据えて、履修プログラムを1つ選択します。

基幹プログラム

サイエンスを追求しながら、アグリ、バイオ、エコの各コースについて、それぞれの課題を解決するためのより高度な理論や技術を学びます。

- 【主な授業科目】**
アグリサイエンスコース：
食料生産科学専門実験実習Ⅱ、食料生産研究準備演習、食料生産研究演習Ⅰ・Ⅱ
バイオサイエンスコース：
バイオサイエンス研究演習Ⅰ・Ⅱ、バイオサイエンス英語演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、バイオサイエンスコース実験Ⅲ

- エコサイエンスコース：**
エコサイエンス研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

【取得可能な資格】
食品衛生管理者及び食品衛生監視員、食の6次産業化プロデューサー（レベル3）、測量士補（※申請中）、樹木医補、自然再生士補、GIS学術士
※2018年度までの入学者はすでに取得が可能な資格であり、現在、2019年度からの新カリキュラムでの申請中です。

国際展開プログラム

各コースの基礎・専門教育に加え、外国人留学生・研究者との交流を含めた演習、海外実習などを通じて、語学力の向上を目指すとともに、異文化理解、多文化共生社会への対応等、グローバル化の進む社会に必要な国際的感覚を身につけます。

- 【主な授業科目】**
国際展開プログラム概論Ⅰ・Ⅱ、国際理解Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、グローバル食農環境論、国際展開プログラム演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、国際農業演習、英語コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ、Intensive Scientific Communication Course などがあります。

地域創生プログラム

食や農を核とした地域のニーズに応えるため、地域の活性化とその好循環の維持を実現する地域社会をマネジメントする方法を学び、地域社会の課題解決を目指すような卒業研究に取り組みます。

- 【主な授業科目】**
地域創生論Ⅱ、地域創生プログラム実習、食と農のビジネス論（社会人とともに学びます）、さらに学科やコースの共通科目の中で地方創生に関わる科目を選択履修します。

大学院への進学

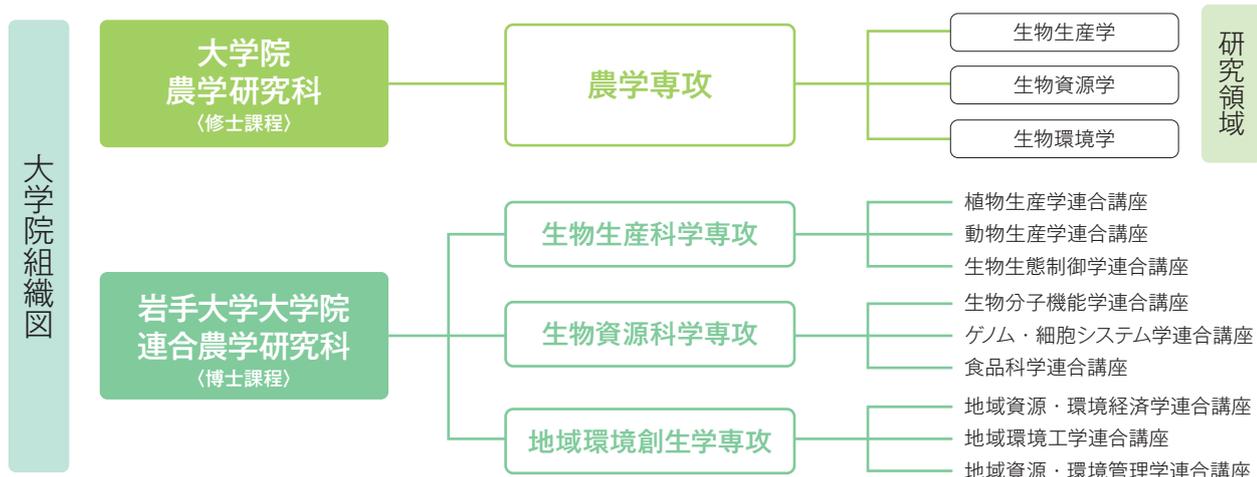
山形大学農学部では大学院の教育・研究に力を入れており、大学院進学を推奨しています。

農学研究科は、従来の3専攻を改組し、新たに「農学専攻」の1専攻とし、この中に、幅広い研究分野を網羅した3つの領域（生物生産学、生物資源学、生物環境学）を設置しました。

これらの領域を基盤にし、今後の社会で活躍できる農学系の高度専門職業人を育成することを目的としています。

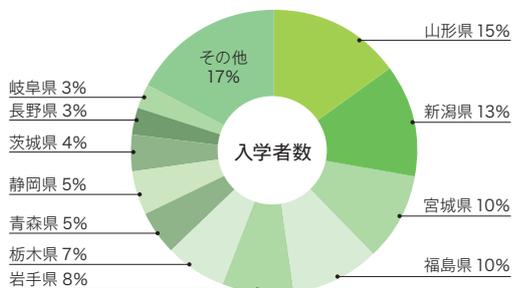
さらに、これらの領域を横断的、複合的に捉え、高度な知的能力を持ち、国際的に通用する人材の育成にも取り組んでおります。

また、山形大学・岩手大学・弘前大学の連合によって設置されている岩手大学大学院連合農学研究科（博士課程）では、我が国の北部に位置する構成大学の特色を生かした教育研究体制を整えており、進学した場合も引き続き本学教員の指導の下で研究を進めることができます。



入試情報

令和3年度における 地域別入学者割合

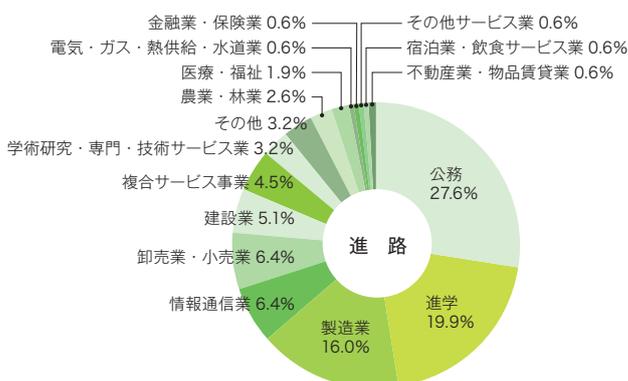


令和4年度 入学試験

学部	学科	選抜区分	募集人員
農学部	食料生命環境学科	一般選抜（前期日程）	95
		一般選抜（後期日程）	25
		総合型選抜Ⅱ	5
		学校推薦型選抜Ⅰ	40

卒業後の進路

就職・進学データ（令和2年度実績）



進学

埼玉大学大学院 / 筑波大学大学院 / 山形大学大学院 他

※就職先・進学先は、令和2年度の実績（抜粋）です。

就職

JA全農、日東ベスト(株)、日本ジェネリック(株)、(株)復建技術コンサルタント、(株)ブルボン、山崎製パン(株)、農林水産省、東北農政局、福島県、宮城県、山形県 など

就職率は平成28年度～令和2年度5年連続100%

公務員試験にも例年多数が合格し、**国家公務員採用総合職試験合格者も輩出しています。**

国家公務員採用総合職試験合格者

S・Hさん (2021年3月本学部卒業 / 山形県立鶴岡南高等学校出身) からのコメント

「山形大学農学部での経験が総合職試験合格に繋がったことは数多くあります。筆記試験通過のために普段の講義の内容が活かされたことはもちろん、面接試験や官庁訪問の際にはサークルでの活動、自然豊かな鶴岡で過ごした日々を含むエピソードを話すことができました！」

山形大学 農学部の特色



1 総合科学としての「農学」を重視した教育体制

人類が地球規模での危機的な食料、環境、エネルギー問題に直面している今、このような複雑な課題を解決するには、応用力と総合力が必要となります。

山形大学農学部では、総合科学としての「農学」を重視した1学科制により、食料、生命、環境科学を総合的に学修し、総合的な判断力を有したバランス感覚のある人材育成を目指しています。

2 学部一括入試

学部一括入試を行っているので、出願の時点で学びたいことを確定させる必要がありません。入学後1年間、農学の基礎や魅力、各分野について学んだ後にコース選択をするので、1年かけて農学の広範な分野から自分がやりたい内容をじっくり見つけることができます。

3 コース ×履修プログラム

「興味や適性で選ぶコース × 将来を見据えた履修プログラム」で、自分の学びたいことを、自分の将来に活かせる学び方で、学ぶことができます。

4 豊かな文化と自然環境 身近なフィールド

山形大学農学部は日本有数の穀倉地帯であるとともに豊かな自然に恵まれた庄内平野に位置しており、農学、生命科学、フィールドサイエンスなどを学ぶ場として最適の条件を備えています。

- ◆山形大学農学部のある鶴岡市
「食文化創造都市」日本初（2014年）ユネスコ認定
「森林文化都市」（群馬県沼田市、埼玉県飯能市、山形県鶴岡市）
「SDGs 未来都市」（2020年選定）
- ◆実習フィールドとして山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター（農場と演習林）が身近にあることも魅力の一つです。



5 活発な国際交流

在学生の約1割が留学生！
日本人学生の4人に1人は海外へ派遣！

6 卒業後の進路

就職率5年連続100%！
卒業生の2～3割は公務員に！

7 SDGsをキーワード にした研究も多数

農学は、SDGs に対して多面的な貢献ができる、広い範囲の分野を対象とする学問です。



本学部ホームページからご覧頂けます。

学生寮

名称	啓明寮
対象	農学部2年次以上 鶴岡キャンパス履修者
定員	男子36名・女子35名
寄宿料（月額）	18,000円
所在地	鶴岡市若葉町12-4
キャンパスまでの距離	鶴岡キャンパスまで500m
建築年	2013年改修
主な設備	ユニットバス、トイレ、ミニキッチン（IH）、冷暖房エアコン
共同利用の設備等	ラウンジ、面会室、洗濯室（コインランドリー）、倉庫、トイレ、自動販売機コーナー
1ヶ月あたりの概算経費	約25,000円 寄宿料：18,000円 光熱水費：約7,000円



※寄宿料（月額）に食費や光熱水費等は含まれておりません。
※学生寮はすべて個室です。

鶴岡キャンパス



アクセス

東京から	東京駅	JR新幹線	新潟駅	特急いなほ	鶴岡駅	徒歩	山形大学農学部 鶴岡キャンパス
			2時間	2時間		20分	
羽田空港	羽田空港	全日空1日4便	庄内空港	リムジンバス	鶴岡エモール バスターミナル	徒歩	
			1時間	25分		10分	
仙台から	仙台駅前 (広瀬通40番)	庄内交通・宮城交通・山交バス・羽後交通			鶴岡エモール バスターミナル	徒歩	
		共同運行高速バス	2時間45分			10分	
山形から	山形駅前 (①番のりば)	庄内交通・山交バス			鶴岡エモール バスターミナル	徒歩	
		共同運行高速バス	1時間50分			10分	



山形大学農学部



〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町1-23
TEL/0235-28-2911 FAX/0235-28-2836
<https://www.tr.yamagata-u.ac.jp/>
この山形大学農学部案内でご不明な点や、より詳しく知りたい方は、上記までお問い合わせください。

リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。